

令和3年度学校評価のまとめ

<p>重前 点年 目度 標の</p>	<p>1 望ましい生活習慣と学習習慣の確立 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 3 生徒の帰属意識を高める活発な生徒会活動と部活動 4 総合学科としての特色づくりの推進と魅力の発信</p>		
<p>分掌 学年</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務</p>	<p>・学校行事の円滑な運営 ・コロナ対策を重視した上でのPTA活動の運営・継続</p>	<p>・それぞれの学校行事について、早期の計画・立案を心掛ける。各仕事の見直しと効率化を図る。また、生徒が関わることができ場面を活用し、生徒の主体性を育む一助となるようにする。 ・役員との連携を密にする。意見交換を重ね、運営をサポートすることによってコロナ禍におけるPTA活動の継続を目指す。</p>	<p>・来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し更なる感染対策に配慮しながら、学校行事やPTA活動の計画・立案を行っていききたい。その上で、コロナ禍以前の行事実施状況に徐々に戻していくことを目指していきたい。 ・3年に及ぶコロナ禍の下で、全く実施できず、経験者が全くいない行事や活動もある。それらをどのようにして次年度に継承していくかが、行事の円滑な運営やPTA活動の継続、活性化に結びつくと思われる。</p>
<p>教務</p>	<p>・「指導と評価の一体化」を踏まえた評価規準の作成及び評価の実施 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善</p>	<p>・夏季休業中に実施予定の高等学校新教育課程愛知県説明会を受け、3観点による評価規準を各教科で研究し、作成する。 ・昨年度完成した令和4年度教育課程を踏まえ、稲沢厚生病院との地域連携をはじめ、社会に開かれた教育課程の円滑な実施を目指す。</p>	<p>・社会に開かれた教育課程を通じた望ましい学習評価（3観点別評価）について、教科主任を中心に学校全体で研究を重ねてきた。その結果、本校の取組をまとめ、県内の高等学校に本校の研究成果を還元することができた。 ・次年度は、新学習指導要領が実施される初年度であり、教務内規の具体的な変更を検討するとともに、各教科と連携を図りながら3観点別評価へ移行していきたい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>・基本的生活習慣の確立（夢源NOTEの活用） ・人を思いやる気持ち人間としての在り方生き方に関する指導の充実</p>	<p>・毎日の登校指導や遅刻指導などから個々の生徒との対話を図り、生活習慣の乱れの早期発見・未然防止に努める。また、夢源NOTEの「欠席の記録」「遅刻の記録」の活用や週間スケジュールを利用した自己管理能力を養う。 ・講話や掲示物、LTなどで、「人を思いやる気持ち」について考える機会を設ける。また、全ての教職員がいじめに対する共通理解をもち、連携を図りながら未然防止に取り組む。</p>	<p>・来年度も夢源NOTEの積極的活用を促し、毎日のスケジュール管理を身に付け、基本的生活習慣の乱れ防止につなげていきたい。 ・いじめについては、対応マニュアルやチェックリストを教員に配布し未然防止・早期発見に努めた。また、ネット上でのトラブルが数件あった。軽い気持ちで書き込んだことが、人の心を深く傷つけることもあり、いじめ防止と情報モラルについて生徒が主体的に考える取組を次年度以降も継続して実践していく必要がある。</p>
<p>進路指導</p>	<p>・主体的に学びに向かう力を育み、自己実現を促す。 ・自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする力を伸長する。</p>	<p>・進路ガイダンスや進路行事等を通して主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育むとともに、学校が社会と連携し、未来の創り手となるために必要な生徒の資質・能力を育む。 ・補習・模擬試験・個別指導等を通して学習習慣の定着と基礎学力、知識・技能の伸長を図るとともに、進路部内で業務の精選と効率化を図り、他分掌や各教科、学年団と協力・連携する。 ・夢源NOTEを活用する。</p>	<p>・新入試制度による各大学の難易度の変化について情報収集を早期に始め、対応を検討したい。 ・補習・土曜学習等、生徒への学習指導に関して、予め設定されていない時間や対象生徒についても、多くの先生方にご指導をいただいた。 ・幹旋就職について企業研究、自己分析や履歴書・面接指導を年度当初から手厚く行うことができ、就職率100%につながった。年度途中で進路希望を変更すると選択できる進路が限られてしまうため、進路選択の進路希望の確定を年度当初より促したい。</p>
<p>保健厚生</p>	<p>・学校全体の環境美化活動の充実 ・コロナウイルス感染症対策</p>	<p>・通常清掃や大掃除に使う清掃用具を充実させる。部活動や職員にも清掃区域を割り振り、学校全体の環境美化意識を高める。 ・保健委員による環境美化パトロールの実施。 ・感染症の状況に応じた対策づくりと生徒や職員への周知徹底を図る。保健厚生部通信や保健だよりの掲示や配布による生徒への情報発信を行う。</p>	<p>・テスト期間中や長期休業期間の清掃が行われないとき、環境が乱れることがあり対策を考えていきたい。来年度は本館トイレの改修工事になるので、清掃役割分担を計画していきたい。 ・感染症予防の意識を高める活動を保健委員や部活動の生徒に協力してもらい計画していきたい。</p>
<p>生徒会</p>	<p>・部活動の活性化 ・生徒会活動及び学校行事の充実</p>	<p>・部活動の活性化につながる啓発活動を行う。 ・顧問の先生がコロナウイルス感染対策をした上での練習計画を立てる。 ・生徒会執行部が自主的、自発的に活動できるようにサポートする。 ・コロナウイルス感染対策に努めながら、学校行事の運営を工夫する。</p>	<p>・部活動はどの部も活発に活動しているので、今後とも生徒および顧問が支障なく取り組むことができるように、バックアップしていきたい。 ・生徒会執行部が体育祭を盛り上げるためにTシャツコンテストを考え、体育祭や球技大会で実施する種目について時間をかけて検討した。自分たちで今できることを考え、自主的に行動できた。 ・来年度は、学校祭を3日間開催に戻す予定である。ただ、感染そのものがなくなったわけではないので、状況に応じて開催方法を検討していきたい。また、総合学科発表会の開催場所の関係で廃止していた予餞会を、来年度は復活し、さらなる生徒会行事の活性化を目指したい。</p>

図書研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用者の増加</li> <li>・各研修の円滑な運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生図書館オリエンテーション、朝の読書、読書感想文、ビブリオバトル、クラス対抗読書チャレンジ、チャレンジ20や生徒によるポップ作りなどを通して図書室利用の啓発活動を行う。また、購入希望図書に生徒の意見を反映させたり、外部図書館との連携を最大限に活用したりするなどして、生徒が利用したくなる蔵書環境を整える。</li> <li>・研修者と綿密に打ち合わせ、事前・事後の指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書の貸し出し冊数は増加しているが、学年別にみると、昨年度コロナの影響で十分なオリエンテーションができなかった2年生が少ない。また、1年生でも漫画だけで終わってしまう生徒もいる。そういった生徒にどう読書の楽しさや重要性を伝えていくか、購入本の選定や生徒目線の図書館だよりの発行など、もっと工夫していく必要がある。また、ここ2年、予定がずれて借り手の少なかった愛知県図書館からの修学旅行関連本の借り受け事業は、依頼をひと月以上前に行う関係上、現在のコロナ情勢を踏まえると、来年度は見合わせる方向で考えている。</li> <li>・各研修については、来年度も早め早めの対応を心掛けていきたい。</li> </ul>
総合推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の3年間を通した生徒各自の課題研究仕上げまでの流れの明確化</li> <li>・学校説明会などの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の課題研究仕上げに向けて、産社・総探各学年のそれぞれの企画が有意義に行えるように、分掌会議および各学年主任との意見交換を密に行い学年会との十分な連携・通知徹底を図る。場合により校内職員にも連絡し、学校の特徴のひとつとなるよう取り組む。</li> <li>・年3回行う学校説明会をより魅力あるものにするべく、1回ごとの特色をもたせる。例えば、部活動見学を強調する回、活躍する生徒にインタビューし日ごろ考えていることを聞き取る回、個別相談会を主とする回、など。中学生に毎回参加したいと思わせる説明会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領にあわせた総探で取り組むべき内容を考えると、今まで以上に深化させた課題研究に取り組むことが最適と考えられる。研究の取組について、具体的には次のように計画し研究の環境を整えていきたい。①毎時の取り組みを日報のような形で残す・②発表の頻度を増やす・③学年を超えた交流も設ける、など。</li> <li>・学校説明会の申込について、次年度は全面的にweb申込とした。また、本年以上に活躍できる場面を用意したい。</li> </ul>
情報推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの導入による校務の情報化・軽減化の推進</li> <li>・クラウド型アプリケーションの導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務の情報化・軽減化推進のための校務支援システムの運用範囲の拡張</li> <li>・校内ネットワーク環境の充実</li> <li>・クラウド型アプリケーションの使用方法的説明会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の校務支援システムは、本校の実情に合わない部分が多く、改善の必要があった。来年度から導入される新校務支援システムに期待する。</li> <li>・クラウド型アプリケーションの使用状況は、増加傾向にあり、ロイノートやMicrosoft Teamsの使用頻度は、来年度も更に増加することが予想される。</li> </ul>
1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生としての生活習慣、学習習慣の確立</li> <li>・学校行事、部活動への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での規律（時間を守る、挨拶など）の指導を丁寧に行う。</li> <li>・身だしなみをはじめ、校則の指導を丁寧に行う。</li> <li>・提出物の徹底、授業を落ち着いた雰囲気の中で受ける指導を徹底する。</li> <li>・学校行事や部活動へ前向きに参加するよう呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この1年で、多様な生徒像が浮かび彫りになってきた。信頼関係を築きながら、家庭とも連携をして生徒がそれぞれの課題を乗り越えられるよう、チームとして取り組みたい。</li> <li>・どんな進路希望であっても学力をつける必要性があるということを、教科の枠組みを超えて伝えて指導していきたい。</li> <li>・人間的な成長の過程で重要な学校行事を、可能な限り実施して、生徒の学校生活への満足度を高めていきたい。</li> </ul>
2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立と学力の向上</li> <li>・進路目標の確立と具現化および進路に関する研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の授業に加え、家庭学習の重要性を常に呼びかけ、多角的な内容を意識した各教科の週末課題を通して学習習慣の定着を図る。</li> <li>・生徒一人一人が進路について積極的な情報収集をし、上級学校体験や講座等への参加するように具体的な方法を学年全体で指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事情から、進路変更をする生徒が少なからずいた。個々に応じた対応の仕方の重要性を改めて感じた。保護者と連携を取りながら生徒と向き合い、指導を継続していきたい。</li> <li>・それぞれの進路実現に向けてやるべきことを明確にし、最後まで粘り強く取り組ませていきたい。</li> <li>・来年度は、最上級学年になるため、後輩たちの手本になるよう学習、行事、部活動により積極的に取り組ませたい。</li> </ul>
3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の進路実現に向けて自主的、主体的に考え、判断し行動ができる生徒の育成</li> <li>・最上級学年としての責任と誇りおよび未来を担う一員になるという自覚の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の細部にわたる指示に頼ることなく自ら判断し行動する機会を増やすとともに、各生徒の希望や関心・意欲に応じた幅広い受験機会を与えるサポート体制を整える。</li> <li>・社会人として必要な常識の会得・生活習慣の確立を求め、また、最上級学年として学校行事や部活動への積極的な参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて、学年団以外の教員にも協力をお願いし、教員の持つ特性を活かし、熱心かつ親身な指導をしていただき、成果につなげることができた。</li> <li>・前向きな生活を送る生徒が多い中、進路や家庭環境に不安や心配を覚える生徒も少なからずいた。コロナ禍の多岐にわたる影響もあり、個々に応じたより細やかな指導の必要性を感じた。</li> <li>・学年団の共通理解のもと、朝学習や補習等を利用し、基礎学力を1年の早い時期から定着させ、就職試験や大学受験のための勉強に臨ませる必要があると感じた。</li> </ul>
総合評価	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。令和元年度にはできていた学校行事がほとんどできない状況であった。体育館に3学年集まることができず、始業式・終業式や全校集会など放送で行われた。今年度の卒業式も在校生は参加することができなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により部活動も思うようにできなかった。生徒たちが学習以外で持てる力を発揮できない1年であった。</p>		